

①事業の基礎情報

事業名	未来にはばたく人材育成事業		担当部・グループ名	こども未来部 文化スポーツグループ							
実施期間	平成 26 年度～平成 29 年度		担当 GL 氏名	岡島 正明							
新規・継続の別	継続事業		電話番号(内線)	52-1111(内線 300)							
縦(計画(基本計画)体系)	個別目標	(3)人と学びの輪を広げ、まちのチカラを育みます		款	10款 教育費 3款 民生費						
	こんなことに取り組みます	地域ぐるみで未来に羽ばたく人材を育て、まちづくりの活力を高めます。		項	5項 社会教育費 2項 児童福祉費						
	みんなで目指すまちづくり指標名	将来の夢を持っている子どもの割合		目	4目 青少年育成・活動支援費 3目 家庭支援費						
		現状値(H25)	81	実績値(H26)	78	実績値(H27)		実績値(H28)		目標値(H29)	85

②事業の概要

目的 (何をどうするために)	<ul style="list-style-type: none"> 感動との出会い、楽しい成功体験により、学力を越えた社会に通用する力を身につけ、子どもの個性が伸び、自ら考え、行動する力、挑戦する力を身につけ、未来に羽ばたく人材を輩出するため。 こども・若者成長応援事業は、まちづくりに参加する若者を増やすべく、高浜を“知る”“好きになる”機会をつくり、活動をとおして老若男女間の絆を築くため。 		
対象(誰・何を対象に)	未来塾:小学4年生～中学3年生の児童・生徒 こども・若者成長応援:中学1年生～高校3年生	対象の数量	4,500人
最終目標 (最終的に何がどうなれば達成か)	<ul style="list-style-type: none"> 未来塾で学んだ子どもたちがその経験を踏まえ、サポーターや講師として次の世代の育成をする。将来の夢を持ち、叶え、社会や地域のなかで活躍することを目指す。 子どもたちが自分に何ができるのか・何がしたいのかを発見し将来の夢を見つけ“高浜のために何かしたい”という自発的な思いが育つことを目指す。関わった子どもたちが、まちへの愛着や誇りを高め、将来のまちづくりにつなげていく。 		

③事業にかかる事業費概要

平成 26 年度 (当初)		決算		主な内容
事業費総額 (千円)		13,527	8,142	<ul style="list-style-type: none"> 映画製作業務委託費 1,500 千円 ロゴ、ポスター等デザイン料一式 216 千円 撮影機材等購入費 284 千円 たかはま夢・未来塾運営委託料 6,142 千円
財源内訳	一般財源	13,018	8,142	
	特定財源			
	国・県支出金	—	—	
	その他	509	—	
補助事業・単独事業の別		単独事業	単独事業	



▲タカハマ物語2 制作風景

④平成 26 年度の実施内容（目指す姿の実現に向けて、どんなことに取り組んできたのかを整理する）

	何を・どうした ※箇条書きで記載する	いつ(年月)	アウトプット
実施内容	①中高校生を含む市民スタッフとタカハマ物語第2弾作戦会議を開催した。	H26.4～	22回開催 タカハマ物語2企画書
	②タカハマ物語2シナリオ、撮影、演技の各ワークショップを開催した。	H26.7,10,11 H27.3	
	③ラジオ放送準備、製作開始記者発表を行った。	H26.8	製作開始記事
	④ホームページ・ラジオ放送開始、市内ロケハンを行った。	H26.9～	
	⑤出演者オーディション、制作発表会を開催した。	H26.11～	出演者選出
	⑥鬼コン vol.4 を開催し、クランクインとなる撮影を行った。	H27.3	
進捗状況	スタッフ会議から始まり、各種ワークショップの開催、オーディションによる出演者の選出、鬼コン vol.4 でのクランクイン（撮影初日）まで予定どおり順調に推移した。		
実施内容に 対する成果 (事業の自己評価)	☆ タカハマ物語2制作スタッフに大学生も加わり、世代を超えた繋がりが広がっている。		
	☆ タカハマ物語第1弾に関わった子どもたちが、教え手に回り中心として活動している。		
	☆ 映画製作に係わる様々な分野の中で、それぞれが興味のあるものに積極的に参加している。		

⑤課題と今後の取組みの方向性（平成 26 年度を振り返り、課題を抽出し、今後の取組みの考え方を整理する）

課題	今後の取組みの方向性
(1) 活動の周知と参加機会の確保 ・すでに多くの媒体でタカハマ物語2の趣旨・活動の周知を図っているが、まだ足りないと感じている。より多くの人の参加を得るための機会を増やす必要がある。	・テレビ・ラジオ・インターネット・広報紙・新聞等の媒体以外においても、市民向けにPRする。例えば、学校現場や市内団体にてPR活動を行う。また、市内の既存イベントで撮影を行い、多くの市民が参加できる機会を設ける。
(2) さらなる活動場面の創出 ・タカハマ物語2制作において、こども・若者が、今までは撮影の準備で関わってきたが、今後は撮影と制作発表等へと関わり方が変わってくるため、今まで以上に主体的に動いてもらえるようにしたい。	・撮影の様々な役割を中高生スタッフが行うようにし、撮影イベントや上映活動の企画・運営を子どもたち主体で開催する。
(3) タカハマ物語2制作終了後の子ども・若者の成長支援 ・タカハマ物語2制作で終わってしまうのではなく、その経験・活動を生かし、こども・若者の成長につながる活動を継続しなければならない。	・タカハマ物語2の製作をとおして、気づき芽生えた“自分に何ができるのか・何がしたいのか”、“高浜のために何かしたい”という子どもたちの想いを発表する場を創っていく。またその想いや夢を実現するための方策を一緒に考えていく場所を提供する。

⑥課題解決に向けた平成 27 年度の具体的なアクション（案）

	何を・どうする ※箇条書きで記載する	いつまでに(年月)
計画(案)	①大人と協力し、撮影時の様々な役割を中高生スタッフが行う。	H27.10
	②既存イベントを活用するなど、多くの市民が参加できるシーンを撮影する。	H27.10
	③初上映会イベントを中高生スタッフ主体で実施する。	H28.1
	④市民スタッフ会議を引き続き開催し、タカハマ物語2活動の検討を行う。	H28.3
	⑤各所での上映活動を中高生スタッフ主体で行い、自分の経験等を発表する。	H28.3
	⑥各種媒体で映画のPRを行うほか、市内の学校等に子ども主体でPRする。	通年

特記事項

・たかはま夢・未来塾事業については、定例の講座として定着しているため、こども・若者成長応援事業である、タカハマ物語2の活動を中心に記載。